

## 二〇一九年 淡座事始め ご報告

### 主旨

「事始め」とは、物事に初めて手をつけること、手始めといった意味です。旧暦では、お正月に神様を迎えるための一連の行事が終わり、春を迎え、人の日常生活や農作業の始まる2月8日を「事始め」といったそうです。

『淡座事始め』は、トークとともに演奏をお楽しみいただき、歓談の時間を交えながら、みなさまと淡座とで新年を祝うイベントです。芸事の「事始め」の意味も掛け合わせた、淡座ならではのプログラムをお送りします。

### 概要

開催日時／2019年1月17日(木) 19:00開演 (18:30開場)

場所／深川江戸資料館 レクホール (東京都江東区白河1-3-28)

料金／1,500円 (ドリンク付き) →来場者数: 33名

作曲・編曲／桑原ゆう

演奏／三瀬俊吾 (ヴァイオリン)、竹本聖子 (チェロ)、本條秀慈郎 (三味線)

主催・企画／一般社団法人淡座

協賛／株式会社エボラブルアジア、日本ビジネスシステムズ株式会社

後援／株式会社システムアリカ アートジョイ



深川江戸資料館



レクホール



日本酒とソフトドリンク、簡単なおつまみをお配りしました。





升タワー



第2回公演同様、Tシャツと手ぬぐいを販売しました。

## プログラムについて

日本の音楽、クラシック、オリジナル作品を組み合わせ構成。端唄「年中行事」と《若紫のうた》の歌詞、ヴィヴァルディ作品に付随されたソネットを記載したカードを配布しました。

<プログラムと構成のねらい、トーク内容について>

- ・端唄「年中行事」(桑原ゆう編曲)

端唄の歌詞が表す季節に合わせ、だれもが知っている旋律を織り込んだ編曲。歌詞に現代はなじみのない言葉がならぶため、事細かに説明。

- ・桑原ゆう: 若紫のうた

泉鏡花による詩をベースとしているため、その詩の内容について、作曲のねらいなど。

- ・A.ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲第4番へ短調「冬」全楽章(桑原ゆう編曲)

だれもが一度は耳にしたことがあるであろう名曲から。ヴァイオリン独奏と弦楽合奏のための作品を淡座の編成になかば強引に編曲をほどこす。付随するソネットの対応する箇所を事細かに説明してからの全曲演奏。

- ・中田喜直: 雪の降る街を(桑原ゆう編曲)

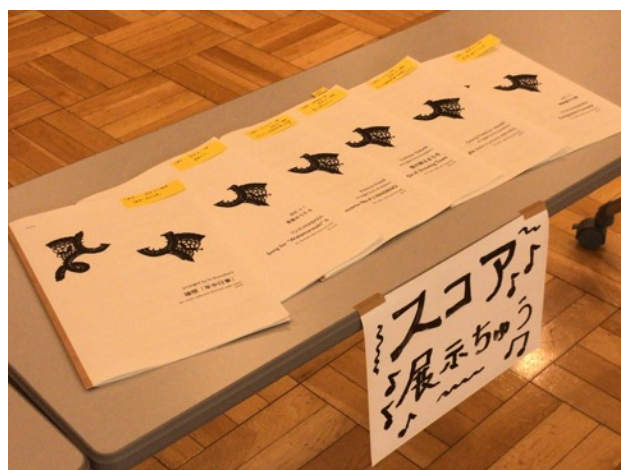
中田喜直について、編曲の経緯(志ん輔師匠との「真景累ヶ淵」VACANT公演のために編曲)、作曲家の考える編曲について。

- ・G.F.ヘンデル: チェンバロ組曲ト短調第7番ト短調より パッサカリア(桑原ゆう編曲)

もともと、ハルヴォルセンによる二重奏版が有名だが、ヘンデルの原曲に立ち返ったかたちであらためて編曲。パッサカリア、変奏について。

- ・桑原ゆう: 越後獅子幻想

越後獅子(長唄)、浅草参り(端唄)について、作曲の経緯(もともと志ん輔師匠の出囃子が越後獅子で、師匠に献呈するかたちで作曲。)



スコアを展示し、休憩の時間等で見ていただきました。他にも、これまでの淡座公演の資料等を展示しました。